

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900425		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームゆいとり		
所在地	岩手県一関市赤荻字月町17番地		
自己評価作成日	平成28年8月4日	評価結果市町村受理日	平成28年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&amp;ji_gyosyoCd=0370900425-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&amp;ji_gyosyoCd=0370900425-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年9月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一関インターを下りると すぐ近くにある白い建物が当施設です。隣には同法人内のデイサービスがあり、コンビニストア、ガソリンスタンド、スーパーなどが近く日常生活に便利な場所です。又、周辺に田んぼや山もあり季節を感じながら、地域の方々や家族に支えられ、また、若い職員も増え、ますます明るく楽しい雰囲気ของกลุ่มホームです。利用者の方や家族、職員との間に信頼関係を築くように、利用者一人ひとりのできる事、したい事などの思いを引き出せるよう努め対応しています。健康維持や機能低下防止に、ニギニギ体操、回想法、頭の体操を活動に入れていきます。利用者家族の家族会があり、家族参加行事に新年会、お花見、敬老会、誕生会、小旅行を計画し、家族と一緒に楽しく過ごせるよう行っています。入居者の方々の高齢化もあり、全員参加の活動が難しくなっていますが、個別の活動で本人の可能性を引き出させるように取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高速インターを下りて数分の、市街地に位置し、同法人デイサービスと並んで建てられている。裏手には田んぼ、畑、小高い林と自然環境に恵まれている。前区長の方の厚意で、休耕田に、春は水仙、チューリップ、ムスカリ、秋にはコスモス(赤、白、ピンク、黄色)を植えていただき、入居者の散歩時の楽しみとなっている。職員同士意見を出し合い、信頼関係が築かれている。日常のケアについても、連絡ノートを使って細かい部分にまで、連絡が行き届くよう記入されている。ケアプランを基にした、ケアチェック表が(利用者)個人別に作成しており、体調確認から気分転換の誘いまで、十数項目にわたって毎日記入出来る独自の工夫が、成果に繋がっている。入居者も職員もよく笑い、よく話す活気にあふれたホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、運営理念に沿った努力目標、実施細目を立て、目標達成に取り組んでいる。運営理念は玄関に展示しており、毎朝、申し送り時にその日の出勤者で読み合わせし、日々の目標を立て反省を行っている。	理念は、開所時に法人から示されたものである。毎日唱和し、その日の目標を立てて、良いホーム作りに努めている。訪問日の目標は、「外部評価頑張ろう」であった。入居者が書いた「ゆいとり理念」が玄関ホールに掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報「ゆいとりだより」を作成し、地区へ回覧板でまわって頂いている。毎年、近所の方から野菜を頂いたり、利用者さんの為に、施設裏からの散歩コースにたくさんの花を植えて頂き、季節の花を楽しませてもらっている。冬の時期では、雪かきを行って頂くなど、地域の方々との交流がある。	隣のデイサービスとの交流が行われている。毎月のお茶会、本部での夏祭り、クリスマス会には法人のバスで出かけて楽しんでいる。花畑を見ながら毎日の散歩を楽しんだり、近所の住民も訪れやすいホーム作りをしている。家族会と協同での小旅行も、毎年の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「ゆいとりだより」は隔月に発行。回覧板で地区へまわし事業所の活動、認知症豆知識や介護情報等を載せ 地区の方々へ認知症についての理解を深めていただけるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き、地域代表の方々、行政組合、利用者とその家族に参加して頂き、活動内容の報告や質問、意見など情報交換を行い、サービス向上に努めている。	運営推進会議委員には、地域の方に多く参加していただき、ホームの応援団になってほしいと考えている。会議では、ホームからの報告に対して活発な質問、助言が出ている。交番(警察)の参加もあり、入居者の情報を提供し、安全対策に活かしている。入居者と家族は、ペアで毎回交代で参加をして頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に 介護保険担当職員に出席していただいている。施設の状況を理解していただき情報交換している。利用者の中には生活保護の方もおり、年に数度 市職員が面会に来所され利用者の状況などを見ていただいている。又、相談ごとなど都度電話で連絡を取り合っている。	運営推進会議に担当者が参加くださり、市の情報を聞くことができている。緊急連絡は、メールで送られてくる。市主催の研修会、情報交換会に参加したり、市の行事にも参加している。利用者の各種手続きは、窓口に出向いて行っており、連携は取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員による施設内学習会を行い理解を深めている。 玄関の施錠は、屋は施錠せず見守り強化に努め、日常生活が安全に過ごせるよう援助している。	本場で研修を受けた職員を中心に、「ゆいとり」内で身体拘束について学習会をしている。立ち上がり時の事故防止のため、4名の方に「離床マット」を使っている。事故にはならず自分で戻ってきたケースがあったことから、敷地内であっても外に出る時には「ちょっと出ます」と、声をかけることを職員は励行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者は人生の大先輩であることを踏まえ、声かけに注意している。施設内学習会では、虐待についての内容を重視し、職員間で日頃からお互いに注意し合える環境整備に努め、職員の意識を高めあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	退所された利用者には後見人制度をつけていた利用者もいる。職員の理解を高め 活用に繋がれるよう学習会を行っている。今年度は 他事業所職員に講義をお願いし学習会を行う予定にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は十分な説明を行い 利用者や家族に納得して頂けるように努めている。利用料金や介護報酬の改定の際には 説明会を開催し承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族総会では施設内の活動などの状況報告を行い、質問や意見、要望を伺っている。 家族の面会や行事、運営推進会議の際にも声をかけさせて頂き、要望などを伺っている。	家族全員が家族会に加入している。順番で、運営推進会議に参加をしている。活動として、年1回の小旅行、新年会、お花見を開催している。要望・意見は特に出していないが、来訪時には会話からの汲み取りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で 行事などの反省や気づきなど、今後に向けての取り組みや改善点について話し合っている。又 職員の意見や提案、連絡などは「連絡ノート」を活用し 職員全員が確認し把握できるようにしている。	「職員連絡ノート」に小さなことも記載をして、情報を共有している。夏場の食欲低下に対する食事の工夫、職員同士で、言葉遣いに注意をするなどのことが、日常的に行われている。法人も、職員の意見や要望を聞く体制が出来ている。	法人体制も、ホームでの職員間の連携もよくとられているが、「連絡ノート」に記載の内容を職員全員が把握しているか、確認できなかった。「連絡ノート」の全員周知の方法として確認した後は、個人の押印やチェックがあれば、なお良いと考えられる。確認方法の検討に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	昇給については毎年あり、臨時、非常勤職員にも賞与支給され やりがいに繋げている。職員の勤務希望も可能な限り取り入れ、仕事しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月 施設内学習会を職員全員で持ちまわりで、学習会のテーマ、内容、発表を行っている。他にグループホームの定例会や研修会参加の機会を設けている。今年度は実践者研修を受講する職員もあり、その職員を中心に職員全体で研修に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県グループホーム協会に加入している。研修会に参加し他事業所と交流、情報交換を行っている。又 アメーバ経営に法人内で取り組んでおり 事業所ごとの取り組みなど発表、情報や意見の交換を行い サービス向上に努めている。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅などに訪問させて頂き、生活環境や病歴などを把握するようにしている。本人からも意向、要望を聞き、思いを共感できるように努め、安心して入居できる環境づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査に伺った際に、家族が困っている事、不安に感じている事や入居利用での生活の心配事など、傾聴する姿勢で伺うようにし、意向や要望なども把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の問い合わせの際は、なるべく本人や家族に施設見学を勧め、日中の活動や雰囲気を見ていただくようにしている。又、地域や同法人内のサービスを紹介も行っている。他施設入所中の家族から相談も度々受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの力量に応じた活動、作業を一緒にしながらコミュニケーションをとり、感謝の気持ちを伝え、本人の自信に繋がられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族へ生活の様子などをお便りでお知らせしている。その時々に行事には、家族の方々にも参加していただいている。又、通院で家族が付き添えない時は施設対応し、変わり事がある場合など都度、家族に電話連絡している。遠くに住む家族が集まり、外出、外泊されている利用者もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族など利用者の馴染み深い方々の面会や、退所された利用者家族が来所されている。利用者の中には携帯電話を利用されている方もおり、連絡を取り合っている様子が見られている。定期的なボランティアで、お茶会や理容に来所され、利用者の皆さんに掛けていただいている。	入居前から使用していた携帯電話で、家族や友人と交信している方が1名おり、操作や充電の支援をしている。定期的に床屋、お茶会等のボランティアが来所して入居者さんと交流をしている。○が食べたいなー、元気だよーを大切に、笑顔が続く支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性を把握し、孤立しないよう援助している。難聴や認知機能低下などでコミュニケーションをとりにくい方にはフォローし、利用者間の関係が良好に保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移られたり、入院によって退院された方への面会や様子を見に行ったりしている。退所された方の家族が来所することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、本人の思いや希望を引き出せるよう声掛けをしている。ケアプラン作成時にはセンター方式を活用し、生活状況、表情、行動などの情報からも本人の思いを把握しながらケアプランに反映している。	自分で想いを伝えることが困難な入居者が、3~4名おり、把握が難しい時には、家族からの情報を基に会話しながら、本人の気持ちに寄り添う工夫をしている。センター方式の記入シートを使って書き込み、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族、ケアマネなどから生活歴など情報収集している。入所後も面会に来られた家族からも細かな情報を得るようにしている。本人からも回想法などの活動で、馴染んできた暮らしや生活環境を引き出し、情報を増やすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定、水分摂取量、排泄状況を確認し体調を把握し、体調の悪化や転倒などの事故を防ぐようにしている。また、表情や行動、会話などから精神状態などの変化が見られる時には、その状態に応じて有する能力を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族の希望を取り入れ、本人にとって一番大切な事を把握し、順番を決め計画している。毎月のモニタリングや2~3ヵ月毎にカンファレンスを実施。6ヵ月毎に計画書を作成しているが、状態変化などに応じて計画書を変更している。	入居者本人・家族の希望を一番に、裁縫をしてきた入居者には、布を身近において、会話に繋げたりしている。家族からは、体調の変化への留意や、楽しみを継続できるようになどが求められている。カンファレンスをしなが、ケース記録、施設計画1、2を参考にプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の様子を記録、実践し、ケアチェック表で確認し、職員間で気づきやケアの工夫を連絡ノートで情報を共有し意見交換している。状態が悪化し意思疎通が困難になっている利用者もあり、24時間の行動記録(対応の仕方、利用者の変化)、確認し職員間でケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常に暮らしの中からニーズを引き出し、買い物などに出掛け、好きな食べ物をメニューに加えたりしている。利用者の重度化により、頻度が少なくなっているが、できるだけ対応するよう支援している。家族希望での外出や外泊、又、家族が当施設に宿泊することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に行くスーパーやボランティアで来られるお茶の先生、床屋さん、散歩時には、近隣の方々からも声を掛けられ関係が築けている。地区の老人クラブによる慰問、又、火災報知器の連絡網に地区の方の登録をしていただくなど地域交流ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、個人ごとのかかりつけ医や希望する病院を受診している。家族が付き添う受診の際には、家族に体調の経過など説明やメモにし伝え、医師に報告していただき適切な医療を受けられるようにしている。	入居者全員が、これまでのかかりつけ医を継続受診している。通院の家族対応は2名、他はホームで対応している。家族受診時は、口頭もしくはメモ書きで状態を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時や体調不良時は、看護師に連絡し指示を仰ぎ対応している。週1回の勤務日には、利用者の経過状況を報告、相談、助言など受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の病院へ情報提供し、利用者本人が混乱しないように支援している。入院中の様子を見に行ったり、家族や病院との連携を取り、本人の状況を把握するようにしている。家族が遠方などの理由で病院に来れない時には、状況報告できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化などによる状態変化については、家族へ事業所で対応できる事を説明し、家族と相談しながら理解を得られるようにしている。これまで特養に移られた方や特養入所申し込みをされている方もいる。	事業所で対応できる範囲は、口から食べることができること(食事が可能なこと)、入浴が可能なことであり、現在1名の方が難しい状態になってきている。「看取りの指針」は作成されており、特養ホームの入居を5名の方が希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内学習で看護師による応急手当を学ぶ予定にしている。又、AEDの設置はしていないが、同法人内の施設の学習会などでAEDの講習会もあり学ぶ機会がある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、隣接するデイサービスと消防に届け出を出し、総合防災訓練を行っている。又、2か月毎に避難訓練を実施。職員間の緊急連絡網で電話連絡訓練や暗い中での避難、経路確認など夜間想定訓練を入れながら実施、自動火災通報器の連絡網に地域の方も登録されている。	2ヶ月ごとに「ゆいとり」だけで避難訓練を実施している。デイサービスと合同では年2回消防立ち合いで行っている。春の訓練では、各居室から玄関まで3分15秒で避難できた。秋(9月9日)には、食堂が出火先の想定で、隣のデイサービスまで避難を予定している。夜間時の訓練はまだ実施していない。水、食料の備蓄は3日分を確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々に尊敬の念を持ち、一人ひとりの個性に合わせ対応している。言葉使いに気をつけトイレ介助や入浴介助などでは、さりげなく声掛け掛け羞恥心を感じさせないように配慮している。	冗談の通じる方、さりげない声掛けが有効な方、独特の動作をする方があり、それぞれの方に合わせて対応している。入浴、トイレ介助時は、特に言葉かけに配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の希望を聞くなど、自己決定する場面を多く働きかけている。誕生会メニューやプレゼントを聞いたり、おやつや飲み物など選択肢を提供し選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、希望に沿った生活ができるように支援している。休みたい時や気乗りしない時には、無理せずに休んでいただいたり、間をおいて様子を見るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の際には、場面に合った服装ができるようにさりげなく支援している。馴染みの床屋さんさんが2か月に1度来所され、コミュニケーションをとっていただきながら散髪してもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材や利用者の好むものを取り入れながらメニュー作りをしている。利用者の重度化に伴い、食事作りの手伝いが少なくなっているが、調理の下ごしらえや盛り付け、食器拭きなどのかたづけを職員と一緒にやっている。	行事食(お正月、敬老会)、季節の食事(栗ご飯、芋の子汁)を楽しみ、常に入居者の食べたい物を聞くようにしている。きざみ食を2名の方が、同じテーブルで職員と一緒に会話しながら食べている。準備や片付けは出来る方が少なくなってきたり、食器拭きに参加している。訪問調査時の昼食は、炊き込みご飯に、サンマのすり身汁で、旬の食材を美味しく頂いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食に10品目以上の食材を使い、「ま・ご・は・や・さ・し・い」の各栄養素が摂取できるように気をつけている。食事や水分摂取量のチェック表を活用し、脱水に気をつけている。夏場は特に脱水や低栄養に注意し、食欲不振の方には栄養補助食品なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声掛けや準備を行い、介助が必要な方には職員が義歯洗浄などを行い、口腔清潔保持に努めている。気分によって歯磨きができない方は、食後の歯磨きや時間に関わらず声を掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間ともなるだけトイレでの排泄を基本としている。排泄チェック表から、個々の排泄パターンや行動を把握し、トイレの声を掛けている。	排泄は、トイレですることが目標で、自立、一部介助がそれぞれ1名、他の方は全介助である。声掛けが必ず必要な方が2名いる。離床マットを4名の方に使って、転倒を防ぎながらトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜や果物を多くし、食物繊維を取り入れるようにしている。バナナやプルーン入りのヨーグルトなどを提供し、便秘予防に努めている。排便困難時は腹部マッサージを行い、便秘症状が強い方には本人に合う薬で、排便状況を確認しながら服用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回入浴ができるようにしているが、身体の状態によってほぼ毎日入浴する方もいる。本人の気分に合わせて希望する方は優先して入浴していただいている。入浴を好まない方には、声掛けに工夫したり、時間を置くなど、職員間で連携をとり誘っている。	11:00～17:00の間に、4～5名を遅番担当が介助している。入浴を渋る入居者が多く、声掛けを工夫して対応している。午前中に渋った時には、午後にもう一度声をかけている。入浴しない方には、清拭タオルで清拭するなど個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休憩には、各居室でゆっくり休めるようにしている。疲れがみられる方には、職員から声を掛けいつでも休んでいただくようにしている。夜間、寝付けない利用者もあり、夜勤者と過ごし、眠気が強くなった時間に小上がりや居室に誘導し休んで頂くなど本人の状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で使用している薬について理解しており、薬の変更時には、副作用、用法など連絡ノートや日誌で申し送りし、職員全員が把握できるようにしている。又、副作用の症状と思われる変化がある時には、看護師、医師に相談し調整をなど行き様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力量に合わせて、洗濯物たたみや食器拭きなどの作業を通し、役割を持ち生活できるようにしている。又、毎日のレク活動や誕生会などの行事など、個々の楽しみを提供できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外での食事など、季節を感じていただけるように散歩やドライブに出かけている。年に1回、家族合同の日帰り小旅行を実施しており、今年6月に モンキーセンターに出掛け外食も楽しまれた。又、家族と一緒に自宅に帰り外泊することもある。	入居者の高齢化によって、出来なくなってきたことが多くなり、買い物への同行や散歩なども、限られた方になってきている。お隣りへ回覧板を届けたり、ホーム裏の花畑を眺めたり、入居者に合わせた時間と範囲で、お日様にあたることを支援している。家族会の小旅行に参加したり、自宅に泊りがけで帰る方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方が多く施設管理している。中には、本人の希望や安心のために財布を身につけたい方もおり、本人管理の財布を持っていたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた際には、本人からお礼の電話に出てもらおうようにしている。又、利用者の中に携帯電話を使い、遠くに住む息子さん、娘さんと連絡を取り合っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集う食堂や廊下に、季節の花、室内装飾、手作りカレンダーなど季節感のある環境をつくるようにしている。又、各居室に温度計を設置し、温度、湿度や乾燥をチェックし、必要に応じてエアコン、加湿器で調整している。	共有スペースの一角に畳の小上がりがあるが、以前は冬場、炬燵を置いて利用されていたが、30センチほどの段差があるため、最近ほとんど利用されていない。昔、家庭でよく使われていた筆筒が2竿おかれてあり、懐かしさを感じさせる。大きな花瓶に季節の花が飾られており、玄関、食堂を華やかにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の席を近づけ、気軽に楽しく過ごせるようにしている。食堂内の小上がりや廊下に数カ所、長椅子や椅子を置き、好きな時に外を眺めたり日向ぼっこをして過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に馴染みの家具などを置き、季節の花(家族や職員提供)や、写真、趣味の手芸作品、カレンダーなどで飾り、居心地よく暮らせるように支援している。	ホーム備え付けの、ベット、筆筒、イス、エアコンがある。ふらつきの多い方は、畳に布団を敷いて休んでいる。家族の写真を飾ったり、ホームで取り組んでいる「習字」の作品を居室にも飾っている方もいる。どの作品も力強く見事である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、居室やトイレなど場所の表示やタンスの引き出しにも中身を表示し、本人がわかりやすいようにしている。転倒が考えられる方には、離床センサーを設置し転倒防止策している。又、日誌で申し送りなどで情報の交換・共有し、利用者個々の状態を把握している。		